

- I 現状と人口減少対策
- II 道の駅・鉄道資料館建設
- III 児童施設と公共施設配置
- IV あびらチャンネル



追分地区 児童福祉複合施設整備に伴う 公共施設集約と再配置

続きましては、追分地区に児童福祉複合施設（認定こども園や子育て支援センターなどを集約した施設）の整備に伴って、公共施設の集約と再配置をしようとするプランについて、その概要をお知らせします。詳しくは町民説明会においてご説明いたします。



解決策

児童福祉複合施設として追分庁舎が活用できたら、解決の道が開けるのではないのでしょうか？

- ・追分保育園(私立)
- ・追分幼稚園(公立)
- ・旭保育園(公立)
- ・放課後児童クラブ(公立)
- ・追分児童館(公立)
- ・子育て支援センター(公立)

追分庁舎を
活用して
↓
これらを統合し
児童福祉複合
施設に

子育て支援担当者の悩み

町の現状

- * 放課後児童クラブの利用対象が小学3年生から6年生まで拡大され、現在の児童館では入りきらない
- * 小学校入学時、環境の変化についていけない子が増えている
- * 早来地区と追分地区の保育サービスの均衡化
- * 幼稚園の老朽化と耐震工事の問題
- * 少子化対策として、若い女性が住んで働いて結婚して、安心して子どもを育てる環境を整える必要がある
- * 追分地区には3歳児教育、一時預り、休日保育が未整備 など



なるほど！追分庁舎の活用か！

【追分地区児童福祉複合施設】

(概算工事費 403,316千円)



- * 追分地区行政の象徴が子どもの象徴になる → 子育て環境が整備・拠点化され、子育て世代に分かりやすい
- * 追分庁舎の耐震工事はあまり経費がかからない → 幼稚園の改修・耐震工事に二重の経費がかからなくなる
- * 追分庁舎という最大の公共施設の再編、活用につながる → 遊休空間の整理、活用ができる
- * 認定こども園、児童館・子育て支援ルームを統合 → 3歳児・一時・休日保育、放課後児童クラブの課題解消
- * 子育て支援の複合施設が整備される → 公共施設の利活用と早来地区との保育サービスの均衡化が図られる
- * 保育所も放課後児童クラブもひとつの建物に入る → 重複利用が多い保護者のお迎えなど利便性が上がる
- * 同年齢の子どもたちが、同じ質の就学前教育、保育を受けられる → 小1プロブレムの解消につながる
- * 放課後児童クラブの受入拡大に伴う待機児童の解消とニーズ量に対応できる → 子ども・子育て支援計画実行
- * 追分保育園に隣接している → 運営事業主体となる法人の希望が叶う

ほとんどが、解決される！

再配置に係る基本的な考え方



【追分総合支所】

概算工事費40,984千円

- * めぐもりセンターを有効活用するため、既存施設を活かした改修とする
- * 追分地区の役場・福祉機能を集約
住民サービスに必要な窓口機能は維持
- * 地域活性化の担当部署を置く
- * 配置想定職員数は約20人
- * 平成28年3月 内部改修の完了
平成28年4月 健康福祉課と建設課を仮配置
- * 平成30年4月 追分総合支所 開庁

施策実施により期待する効果

- * 子育て環境の充実による人口減少対策
- * 将来を見据えた公共施設の利活用による将来コストの縮減

【追分公民館】



- * 教育委員会事務局は早来庁舎へ
- * 社会教育活動の場として、追分地区の教育窓口の機能の維持に配慮
- * 配置想定職員数は約5人
- * 移行予定年月は平成30年4月

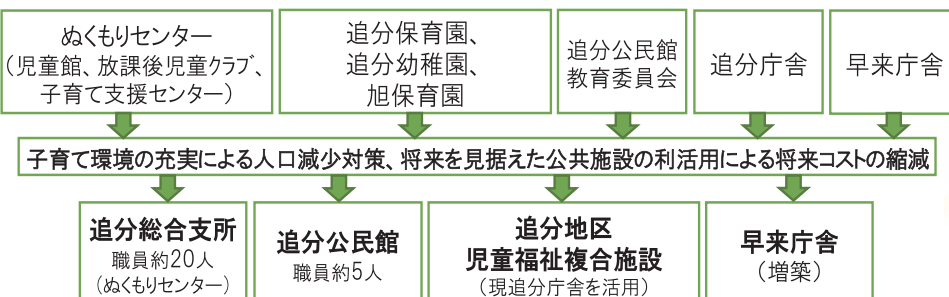
【早来庁舎】

概算工事費
808,654千円



- * 現在の早来庁舎を耐震補強し、長寿命化を図る
- * 来庁者の利便性を考え、窓口機能を集約
- * 相談スペースを整備
- * エリア放送スタジオやホールなどを活用し、町民活動の場を創造
- * 平成29年5月頃 増築庁舎完成
平成30年3月 現庁舎改修完了
平成30年4月 新組織体制へ

プランの全体構造



あらためて、「追分地区児童福祉複合施設の整備に伴う公共施設集約と再配置」を図式化するとこのようになります。

